



広い日本の中には  
 実際どんな珍らしい宝玉が  
 どんなに多く土の中に  
 埋没されて居るか  
 其れを掘り起さねば  
 ならぬと思ひますから

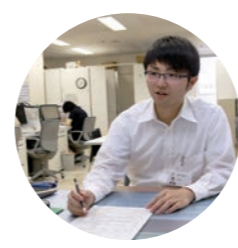
—『江刺郡昔話』より—  
 佐々木 喜善

# 特集 佐々木喜善

「日本のグリム」と称される昔話研究の先駆者、佐々木喜善(右)。  
 喜善が私たちに残してくれた宝物とは—。  
 没後80年を記念し、現代に生きる喜善の遺産に迫る。



## 今月のみどころピックアップ!



市職員募集!  
 ▷▷▷ P12

心温まるお手紙を募集!  
 ▷▷▷ P14



中総体サッカー優勝  
 ▷▷▷ P18

遠中旧校舎お別れ式  
 ▷▷▷ P20



ジンギスカン祭り初開催  
 ▷▷▷ P29

## 目次

- 03 キリン スマイルフィールド  
 サッカー日本代表の香川選手らによる  
 サッカー教室の様相を紹介。
- 05 特集 **佐々木喜善**  
 没後80年を記念し、「日本のグリム」  
 佐々木喜善の生涯と功績を紹介。
- 12 市からのお知らせ  
 職員募集、宅地分譲のお知らせ ほか
- 14 各種団体からのお知らせ  
 遠野の新キャラ募集、遠野のまちづくり  
 講座、駅伝大会出場チーム募集 ほか
- 16 総合カレンダー
- 18 各種スポーツ・文化の結果  
 中総体、高総体、書道展結果 ほか
- 20 ニュース&トピックス  
 林業サミット/広域ごみ処理施設着工/  
 遠野中学校旧校舎お別れ式 ほか
- 22 図書館・博物館、放射性物質  
 濃度測定値のお知らせ
- 24 学びのいずみ  
 劇団かかし座の公演/市民芸術祭参加者  
 募集/まちづくり理解講座/松竹新派喜  
 劇公演 ほか
- 26 インフォメーション
- 28 まちの話題  
 宮守で七夕行事/絆ヴィーナス全国大会  
 出場/ジンギスカン祭り初開催 ほか
- 30 みんなの広場
- 32 青春のトーク ほか

2013 NO. 98

## 広報遠野 8

■市の人口(6月末現在)  
 男性:14,178人(-28人)  
 女性:15,324人(-29人)  
 計:29,502人(-57人)  
 世帯数:10,831戸(-15戸)  
 ※( )内は前月比

■刑法犯総件数(平成25年1~6月)  
 31件

■交通事故発生件数(平成25年1~6月)  
 発生328件 負傷者36人 死者2人

■火災発生件数(平成25年1~6月)  
 建物2件 林野その他10件 計12件

■救急車出動回数(平成25年1~6月)  
 564回

### 地域のさまざまな情報をお寄せください

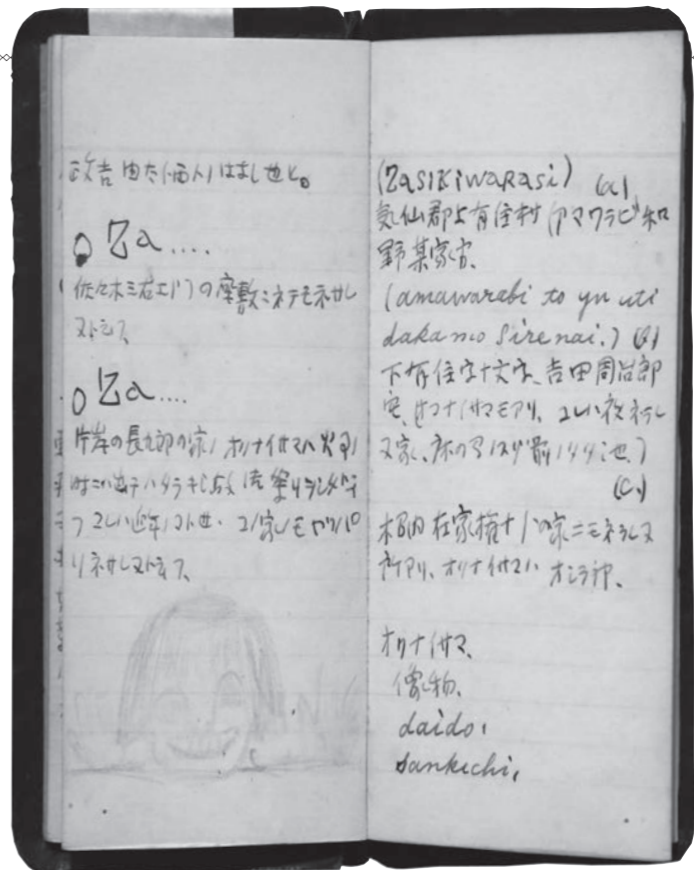


市へのご意見・ご提言、広報へのご感想など、皆さまからの情報をお待ちしています。各地区センターや市の公共施設に「市政なんでも相談箱」(左)を設置しています。ぜひ、ご利用ください。



# 喜善の軌跡

柳田國男に遠野の物語を伝えた佐々木喜善。しかし、彼の功績はそれだけではない。「日本のグリム」と称される彼の生涯と功績を振り返る。



## 喜善の手帳

柳田から依頼されて開始したザシキワラシ研究の際に携帯していたもの。左下は、喜善直筆のザシキワラシのイラスト。

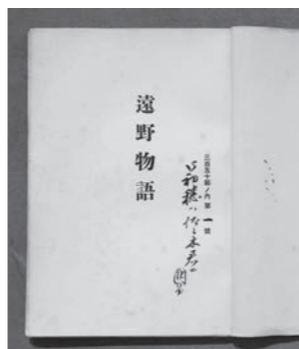
これらの資料は、現在開催中の市立博物館特別展「佐々木喜善と宮沢賢治」(詳細P11)でもご覧いただけます。



柳田國男 (1875~1962)

## 柳田が喜善に贈った『遠野物語』初版

柳田は初版350部のうち、第1号を喜善に贈った。「御初穂ハ佐々木君ニ國男」と筆で書かれている。



※グリム…19世紀のドイツで活躍した民話収集家のグリム兄弟のこと。『グリム童話』の編集者として有名。

## 佐々木喜善(1886-1933)

1886年(明治19)	現在の土淵町山口の厚楽家に生まれる
1903年(明治36)	現在の岩手医科大学を中退し上京
1907年(明治40)	小説『長靴』を発表。中央の文壇で名を馳せる
1908年(明治41)	水野葉舟の紹介で柳田國男と出会う
1910年(明治43)	『遠野物語』刊行
1911年(明治44)	遠野に帰郷する
1922年(大正11)	喜善初めての昔話集『江刺郡昔話』刊行
1925年(大正14)	土淵村の村長になる
1929年(昭和4)	土淵村の村長を辞任。仙台へ移住
1933年(昭和8)	現在の仙台市宮城野区清水沼で死去。享年48歳

## 文学を志した少年時代

1886年(明治19)、現在の土淵町山口に佐々木喜善は生まれ、生後間もなく母親の実家へ養子に出された喜善は、祖父の万蔵とノヨに育てられ、たくさんの昔話を聞いて育ちます。また、万蔵は学問をさせたいと本を豊富に買い与え、その影響から喜善は文学にのめり込んでいきました。万蔵の薦めで進学した私立岩手医学校(現岩手医科大学)も一年で中退し、小説家を目指して上京。小説家・泉鏡花に憧れていた喜善は、鏡石というペンネームで小説を書き始めます。1907年(明治40)に発表し

た小説『長靴』が文壇で評価されるのをきっかけに、石川啄木や水野葉舟、北原白秋、三木露風などの文学者たちと交流を深め、作家としての腕を磨きました。

## 『遠野物語』の誕生に貢献

文学者との幅広い交流の中で、喜善は運命的な出会いをします。1908年(明治41)、水野葉舟の紹介で柳田國男と出会い、喜善は遠野に伝わる民話などを語ったのです。感銘を受けた柳田は、それらを本にまとめることを決意。喜善は何度も柳田宅を訪れ、資料作りを手伝うなど編集に協力しました。

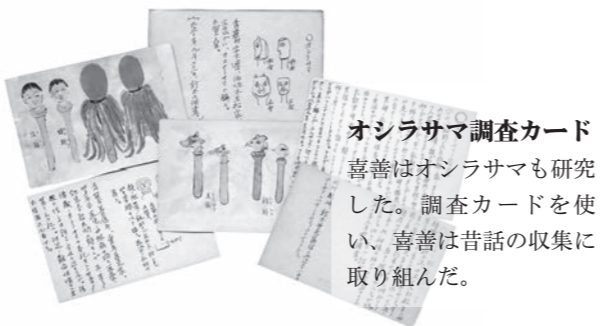


## 新版 聴耳草紙(初版)

東北各地の昔話183話を収録。喜善の昔話研究の集大成。

## 江刺郡昔話(初版)

江刺の炭焼きから聞いた話を収録。「昔話」という言葉を初めて使った。

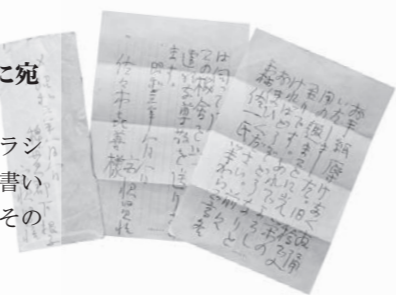


## オシラサマ調査カード

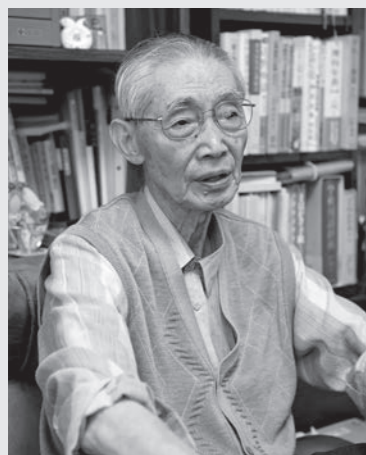
喜善はオシラサマも研究した。調査カードを使い、喜善は昔話の収集に取り組んだ。

## 宮沢賢治から喜善に宛てた手紙

宮沢賢治はザシキワラシを題材にした童話を書いている。この手紙はその時のもの。



## Interview



遠野物語研究所 研究員 佐藤 誠輔さん (85歳、東穀町)

## 喜善がいたから、遠野物語は生まれた

喜善の功績は何と言っても柳田國男に遠野の昔話を紹介したことでしょう。喜善がいたからこそ『遠野物語』が生まれ、遠野は全国的に有名になったのです。

喜善が育った土淵町の山口集落は、かつて沿岸と遠野を結ぶ交通の要衝でした。人の交流とともにさまざまな話も伝わり、それが昔話として伝承されている地域で、喜善も祖父母からたくさんの昔話を聞いて育ちます。その影響で昔話が大好きになった喜善は、大人になってもいろいろな人に昔話を語ります。その一人が柳田。文学に精通した喜善が語る昔話は魅力的で、柳田に『遠野物語』を書くことを決意させるのです。また、喜善は資料収集など柳田の編集に協力します。

『遠野物語』は柳田と喜善の共同作品と考える研究者もいるほど、喜善の存在は重要でした。

また、「日本のグリム」としての功績も忘れてはなりません。昔話は、郷土の文化や歴史を生き生きと語ってくれる貴重な文化的資源。喜善はその価値に誰よりも早く気づき、昔話の収集と研究に生涯をささげました。ありふれていて当たり前だと思っていた昔話に光を当て、価値を見出した…。その功績は、時代を越えてますます脚光を浴びています。喜善は私たちに、文化や歴史を保存し伝承する大切さを教えてくれました。次は私たちが、喜善が残してくれた宝物を後世に伝えていく番だと言えるでしょう。

## 「昔話」に価値を見出す

1910年(明治43)に刊行された不朽の名著『遠野物語』(柳田國男著)はこうして誕生しました。同著は民俗学という新たな学問を生み出すきっかけとなり、遠野の名を全国に知らしめました。喜善の第一の功績は、柳田に遠野に伝わる民話などを紹介し、『遠野物語』の誕生に大きく貢献したこと。幼い頃から昔話に慣れ親しみ、文学的な才能もあった喜善の存在が『遠野物語』を生み出したのです。

は佐々木家を継ぐために遠野へ帰郷。土淵村の議会議員や村長などの公職に就きながら、ザシキワラシなどの研究を始めます。その中で喜善は、昔話は地域の生活や文化、歴史を知ることができ、貴重な文化的資源だと確信。1922年(大正11)に「昔話」という言葉を日本で初めて使った『江刺郡昔話』を刊行するなど、喜善は昔話の収集・研究に没頭していきます。

1929年(昭和4)、村長を務めた後、仙台へ移住。東北各地の昔話を収めた『聴耳草紙』を刊行したほか、ラジオで民俗学講座を主催するなど昔話や民俗学の普及に努めました。また、晩年はザシキワラシの研究などを通じて童話作家・宮沢賢治とも親交を深めます。1933年(昭和8)9月29日、病氣のため現在の仙台市宮城野区清水沼で死去。昔話研究の先駆者としての生涯を閉じました。

喜善の第二の功績は、日本ではまだ誰も昔話に注目していなかった時代に、その価値に気づき、後世に残したことです。その功績は言語学者の金田一京助や折口信夫から「グリム以上の功績」と称賛され、後に喜善は「日本のグリム」と呼ばれるようになりました。





山口自治会 会長  
**田尻 寿樹さん**  
(70歳、土淵町)

※国の重要文化的景観…人々の生活や風土に深く結びついた地域特有の景観を保護するために、国が選定するもの。

## 景観

### 何気なく眺めている景観も、視点を変えれば地域の宝になる

本年3月、山口集落は喜善が生まれ育ち『遠野物語』の舞台となった地として国の重要文化的景観(※)に選定されました。選定にあたり、私たちは集落の文化や歴史を詳しく学ぶ勉強会を開催。勉強会を通じて、私たちは初めてこの集落が文化的に価値があることを知りました。選定は、自分たちが生まれ育った郷土の価値を見直すきっかけを与えてくれたのです。

選定後は、月に一回のペースで草刈りや花植えなどの景観保全活動を実

施。郷土に誇りを持つようになった住民は、積極的に協力してくれます。活動を通じ、地域の絆がますます強くなったと実感しています。

遠野には、文化や歴史が豊富に残された美しい景観がまだまだたくさんあると思います。以前の私たちがそうであったように、その価値に気付いていない人も多いのでは。何気なく眺めている景観も、視点を変えれば地域の宝になります。その宝を後世に守り継ぐことが、私たちの役目だと思います。

## 語り部

### 遠野に伝わる不思議な昔話を、いろいろな人に語りたい

私たちの学校の自慢は、全校児童が語り部となり、昔話を披露できること。総合的な学習の時間に「語り部活動」を行っているからです。佐々木喜善祭や学習発表会などで発表することを目標に、練習に励んでいます。

先生は地元の語り部の皆さん。活動では、話し方や方言のアクセントなどを指導してもらいます。特に、よくアドバイスされるのは、「相手に伝わるように語る」ということ。相手の表情を確かめながら、ゆっくり丁寧に話す

ように心掛けています。最初は緊張しましたが、今では人の前でも堂々と披露できるようになりました。活動を通じて、伝える力が身についたと感じています。また、今まで知らなかった地域の文化や昔の人々の暮らしを知ることができ、自分のまちが好きになりました。

もっと練習を重ね、上手に語れるようになりたいです。そして、遠野に伝わる不思議で面白い昔話を、いろいろな人たちに語りたいです。



土淵小学校6年  
**石田 和真君**  
(11歳、土淵町)

「昔あつたずもな」から始まる優しい語りで、聞き手を不思議な世界へ誘う語り部。農村の原風景を残し、訪れた人を懐かしい気持ちにさせる美しい景観。これらは市内外から評価される遠野の魅力です。そして、語り部や景観が昔のまま残っているのは、喜善がその価値に気付き、保存・伝承することの大切さを後世に伝えてくれたからです。私たちは、遠野の魅力をさまざまな形でまちづくりに生かしてきました。語り部の存在は郷土を知ることができ、教育資源としても活用されています。美しい景観は郷土愛を育み、保全活動をさらに深めています。このほか、語り部や景観などを資源とした観光産業も発展しました。今では年間約200万人が訪れる一大観光地となり、遠野の魅力が市外に発信されています。喜善の存在が、遠野の価値を引き出してくれたのです。

### 喜善の遺産とは

# 喜善の遺産

語り部と景観、そして、それらを資源とする観光産業。いずれも喜善が後世に残してくれた遺産だ。喜善の遺産は遠野のまちづくりにどのように生かされているのだろうか。3人にインタビューした。



遠野ふるさと観光ガイド  
**菊池 孝さん**  
(72歳、松崎町)

## 観光

### 遠野の魅力は、風景の一つ一つに物語があるということ

私たち遠野ふるさと観光ガイドは、観光客と一緒に市内を巡り、遠野の魅力を紹介しています。初めて訪れた人に遠野の第一印象を聞くと、「何もない所」という感想がよく返ってきます。例えば、デンデラ野。一見するとただの草原です。しかし、そこには物語があります。案内する時、私は『遠野物語』の一節を紹介し、デンデラ野の由来や歴史など物語が誕生した背景を詳しく説明するようにしています。すると、観光客はデンデラ野が単なる草原

ではないことに気付く、遠野の奥深さに感動してくれるのです。

遠野の魅力は、何もないように見える風景の一つ一つに、物語があるということ。そして、物語の背景には道徳的教訓や先人の知恵など現代の私たちが学ぶべきものがたくさん残されていることです。喜善が探し出してくれた昔話の魅力や、その背景をもっと学び、訪れた人に語ってあげましょう。そうすれば、観光地としての遠野の価値がさらに高まるはずです。



### 山口集落

平成25年3月27日、国の重要文化的景観に選定された。『遠野物語』発祥の地であり、農村の昔の生活を今に伝える景観が残されている。



### 佐々木喜善祭

命日である9月29日に伝承園で毎年開催されている。地元の子供たちが昔話を披露するなどして喜善を偲んでいる。

### 語り部

遠野に伝わる伝説や昔話を、方言で優しく語る。語り部の昔話を聴きたくて訪れる観光客も多い。



# 喜善の縁

喜善が縁で新たな交流が始まろうとしている。グリム兄弟が育ったドイツ・シュタイナウ市と喜善が晩年を過ごした仙台市宮城野区清水沼だ。橋渡し役を務める2人から交流への思いを聞いた。

## グリム兄弟が育った場所

ドイツ・シュタイナウ市



喜善の偉業は、グリム兄弟同様世界に発信する価値がある

昨年9月に滝沢村で開催された震災復興を考える「新渡戸国際塾」に復興支援の一環で参加した際、本田敏秋遠野市長の講演を聴きました。講演の中で本田市長は、喜善が「日本のグリム」と称されていることも紹介。日本グリム協会の会長を務める

宇都宮大学名誉教授  
日本グリム協会 会長  
**橋本 孝**さん



私がある場に居合わせたことは何かの縁と感じ、グリム兄弟が幼少時代を過ごしたシュタイナウ市との交流を提案させていただきましたのがきっかけです。昨年12月には、同市のシュトラオホ市長に本田市長の親書を伝達。相手側にも歓迎され、本格的に交流が始まろうとしています。

同市は、ドイツ中部にあるヘッセン州の都市で、人口は約1万1千人。メルヘン街道沿いの観光地として世界的に有名な。グリム兄弟に関する博物館や人形劇団があるなど、同兄弟の功績を積極的に研究し、世界に向けて発信しています。脚光を浴びないできた喜善の昔話収集家としての偉業は、グリム兄弟と同様に価値があります。同市の取り組みを参考に、世界へもっとPRしていくべきでは、「グリム」の縁による両市の友好交流は、異文化交流や観光振興などさまざまな面でも期待できると思います。



右/シュタイナウ市の街並み  
左/本田市長からの親書を受け取るシュトラオホ市長(左)と橋本さん

## 喜善が没した地

仙台市宮城野区清水沼



仙台市宮城野区  
清水沼町内会 会長  
**佐々木 正明**さん



喜善との縁を大切にしながら地域づくりを進めていきたい

私たちの町内会では、『遠野物語』や喜善への理解を深めるための勉強会を定期的に行なっています。平成22年に『遠野物語』を研究するグループが訪ねてきたのがきっかけ。「喜善のことを何か知りませんか」と聞かれ、清水沼は喜善が晩年を過ごした地域だと知り驚きました。興味を抱いた私たちは、町内会創立60周年の記念事業として、喜善と清水沼の関係を詳しく学んでみることにしました。以来、月に1回程度勉強会を開催。赤坂憲雄遠野文化研究センター所長や遠野の語り部を招いて講演会も行いました。

活動を通じ、自分たちが住む地域に多くの魅力が隠れていることを知り、地元への誇りや愛着も強く持てるようになったと実感しています。また、この取り組みがきっかけで、地元の小学生が修学旅行で遠野を訪れるなど交流も広がっています。

現在は、地元小学校での語り部講演会の開催や、町内会での遠野への訪問など、今後の構想を膨らませています。地域子どもたちに、自分が住む清水沼に誇りと自信を持ってもらいたい。そのために、喜善との縁を大切にしながら地域づくりを進めていきたいと思っています。



左/語り部講演会の様子 下/昭和35年の清水沼の写真(佐々木正明氏提供) 右/現在は埋め立てられ、清水沼公園として地域づくりの拠点になっている



### 次は私たちが喜善に

喜善が縁でシュタイナウ市や清水沼地区との交流が始まろうとしています。市外との交流は、遠野の魅力をさらに高め、新たな可能性をもたらしてくれることでしょう。語り部と景観、それらを資源とする観光産業。そして、交流の輪。これらは全て、現代に生きる喜善の遺産と言えます。喜善はなぜ昔話を収集したのか。それは、昔話が「先人たちのメッセージが込められた宝物」だったからではないでしょうか。昔話の中には、歴史には決して刻まれることのなかった庶民の苦しみや悲しみ、そして貧しい時代でも生き抜いてきた先人たちの知恵が隠されています。親から子、子から孫へ語り継ぐ

時、先人たちは道徳的教訓や後世への願いを込めて伝えてきたのです。

喜善はありふれた存在だった「昔話」に価値を見出し保存してくれました。そのおかげで私たちは、「昔話」から過去を学び、未来への指針とすることができるようです。遠野の暮らしの中には、まだまだ皆さんの宝物が眠っているかもしれません。当たり前のように感じる生活やなりわい、風景の中に…。

喜善が亡くなって80年。その功績は今の遠野へとつながっています。次は私たちが喜善になって、眠っている宝物を掘り起こし、伝えていきましょう。未来の遠野を担う、後世のために。

◎特集「佐々木喜善」終わり

## お知らせ

佐々木喜善没後80年記念事業などを紹介します

### ①市立博物館特別展「佐々木喜善と宮沢賢治」



■期間・時間 10月6日(日)まで、9時～17時  
■場所 企画展示室

### ②佐々木喜善祭

■日時 9月29日(日)  
■場所 伝承園

### ③市立博物館特別展「佐々木喜善とグリム兄弟」

■期間・時間 11月1日(金)～11月23日(土)、9時～17時  
■場所 企画展示室

### ④遠野文化フォーラム

■日時 11月3日(日・祝日)、13時～  
■場所 あえりあ遠野交流ホール  
■内容 シュタイナウ・グリム博物館の館長による講演会など

◎問い合わせ ①③④に関する事市文化課(☎62-2340) ②に関する事土淵地区センター(☎62-2837)